

保育の現場はいま

#子どもたちにもう一人保育士を

12月7日
(水) 15時40分
からメ〜テレ「アップ！」
で、「手が足りない！ 保育の現場はいま」を6



分30秒にわたり放映しました。11月20日(日)に白川公園で行われた「子どものたちにもう1人保育士」の集会とパレード(900人参加)、「悲しい事故とか、ここ数年起きていますので、1人保育士が増えることによって、安全が守られるのかなという思いがあって」(参加した男性)などインタビューも紹介しました。瑞穂区の「こすもす保育園」取材し、現場の実態も紹介しました。番組の最後には、「子どもたちにもう1人保育士を」実行委員の平松知子さんが登場し「0歳から6歳までの人格形成の土台の大事な時期に『自分は大事にされているな』『大切にされたな』という実感は、記憶ではなく、心の中に自分を大事にする気持ちとして育つと思う。そういう子たちが日本中に広がれば、この国は間違いなく良くなると思う」と思いを述べました。

8日(木)には「ひるおび」でも「安心して子を預けたい 保育士の実態を分析！」として特集されました。朝日新聞は12月5日から全10回で連載を始めています。

高齢者の生活を守る県政を 12/2 革新県政の会決起集会での発言⑤

先日、執行委員会に尾形さんを招き、ご挨拶とともに県知事選への立候補の抱負を語っていただき、推薦することを決定しました。県内62の支部長に対しても伝え、役員会でも推薦いただけるように働きかけていることを報告します。

ところで、私たちは高齢期の人生を豊かに暮らせるように市町村や国・県に対しても福祉制度の強化を求めて運動しています。秋の自治体キャラバンなどともに、県後期高齢者医療広域連合議会に保険料の引き下げや同意なしの保険料の年金からの引き落としに対して今年度は800名を超える方が不服申請しました。しかし、法による執行であり却下。回答に怒り心頭です。特に本年10月からは医療費自己負担の2倍化が物価の高騰に重なり、高齢者の生活を直撃していることをもっと認めるべきです。最後に私たちの生活の糧である年金。物価高騰、医療費の2倍化なのに、逆に年金は引き下げる。まさに三重苦の押しつけです。黙ってはおられません。もっと、高齢者の生活をしっかり守ってくれる県政を期待します。(年金舎組合委員長 丹羽典彦)

